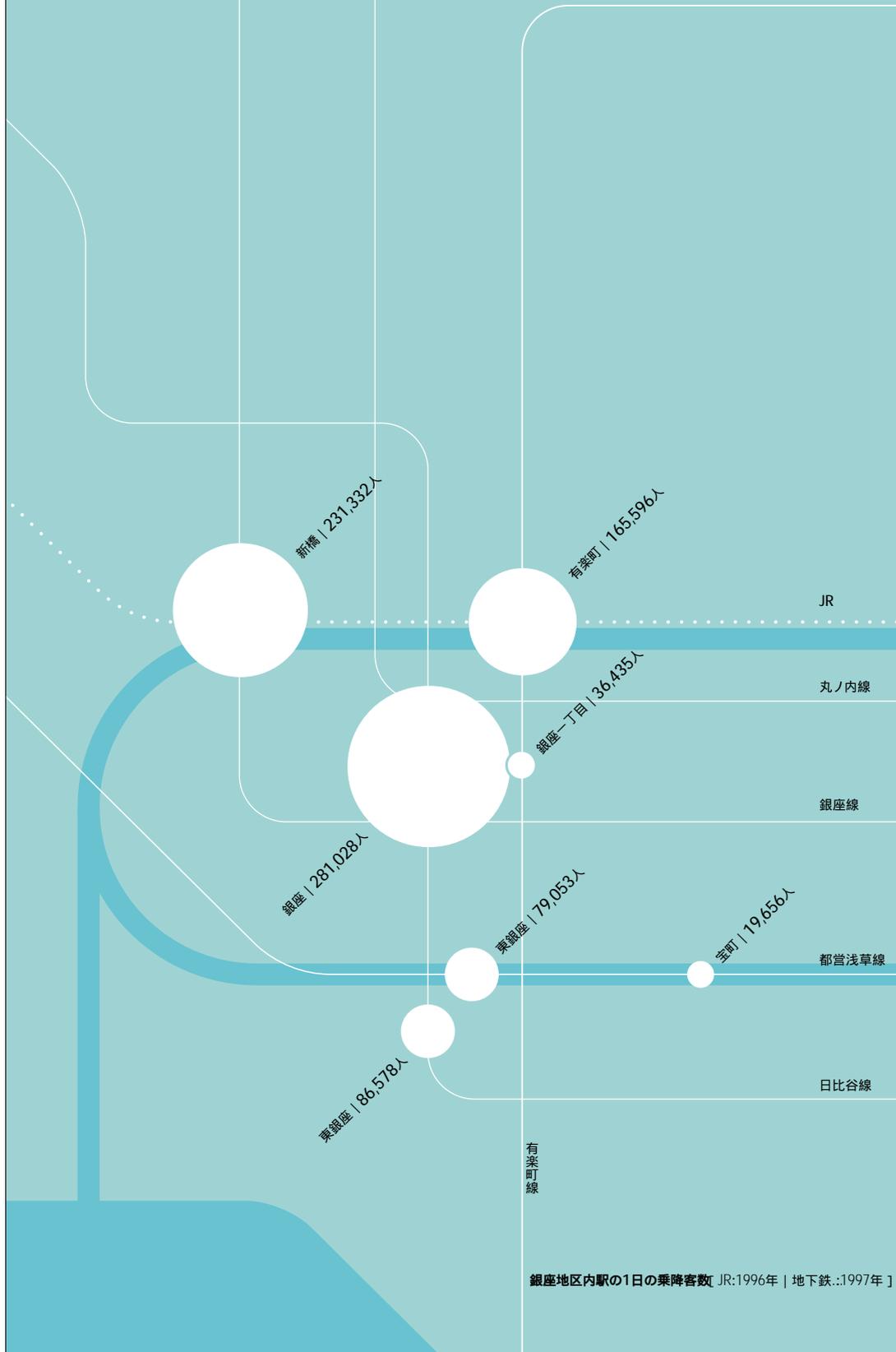


銀座まちづくりビジョン

銀座通りに柳は必要か



銀座に来られた理由は、何ですか。

銀座にはいろいろなお店があります。ものがあります。ちょっと背伸びをした気分で銀座に来られる方もおられます。おしゃれを、会話を、食事を楽しんだあとは、ちょっと心が大きくなったような気分です。銀座は、そんな場づくりをめざしてきました。まるで、葡萄が樽の中で熟成し、どんどんまろやかなワインになるように、おしゃれ感覚が、

買物に来ました。
家族そろってレストランへ。
画廊めぐりです。
ケーキづくりを習いに。
パーティがあるの。
何となく...
お芝居を見るので、
待合せています。
人に来てその後、
飲みに行きます。

味覚が、知性が、あなたの
持っておられる感性のすべ
てが、より磨かれ、より美しく
輝いて満ち足りた思いで帰
路につかれることを、なによ
りのよこびとしてきたのです。
ところが、時代と共にお客さ
まの銀座への期待がさらに

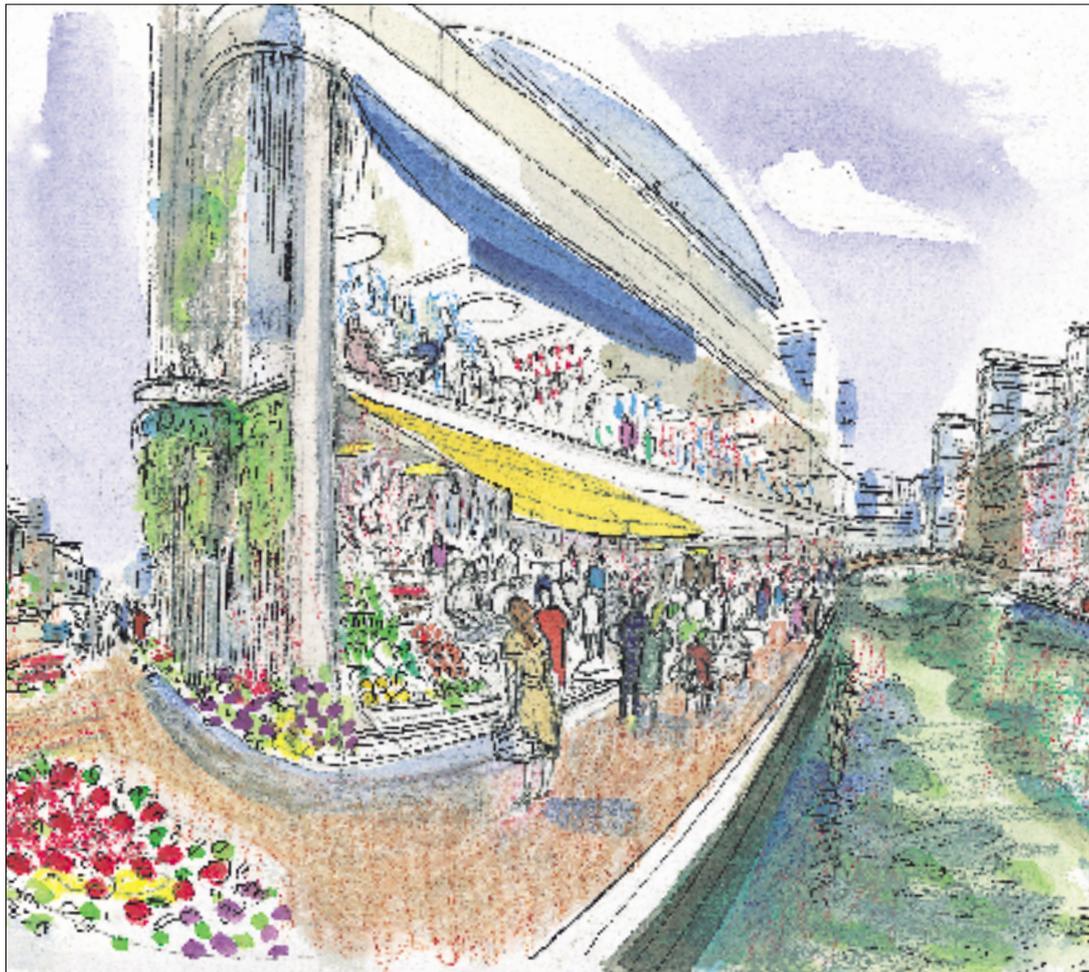
大きく深くなっているように思うのです。この期待に応えられるように、銀座も変わらなければ。このままでは、21世紀を迎えるのにふさわしいワイン樽の役目を果たしていけるのだろうかと考えました。欠けたり、穴が開いていないだろうか。美味しいワインが漏れてはいないだろうか。そこで、2年前から、銀座に来られたお客さまにアンケートをいただいたり、銀座通連合会が勉強会やセミナー、講演会を催したりして、再確認を行なってきました。専門家に歴史の検証や分析もしてもらいました。こうした作業に基づいてまとめたのが、この小冊子です。今まで、銀座は日本の都会を象徴していました。世界の銀座としても認められてきましたけれども、それに甘んじることなく、さらに上質の魅力ある銀座として、21世紀に引き継いでいきたい、その思いが新しいまちづくりへと駆り立てるのです。



銀座近未来スケッチ① 歩いて楽しい銀座

銀座通りでは、家族づれ、恋人たちが銀ブラを楽しんでいます。
コミュニティバスやLRTといった公共交通が銀座をこまめに走り回り、
歩道には緑があふれ、楽しい空間をつくりだしています。

Ginza



銀座近未来スケッチ[2] 水辺の銀座
銀座は水に囲まれ、舟運交通もさかんです。
水辺には生鮮・海鮮食品の店や
レストランが並び、にぎわいを見せています。

Vision

銀座は、一朝一夕にできたわけではないことを多くの方が認めておられます。アンケートでも、銀座のまちづくりを考えるうえで今後も大切にしたい点として、「銀座の歴史と伝統」を約6割の人が、また「大人の街としての風格」を約半数の人が挙げています。今日の銀座のまちは、明治5年の大火のあとに表通りを中心に建てられた日本

もっと美しい、

もっと知性がドキドキする、

もっと生き生きする

魅力あるまちづくりを

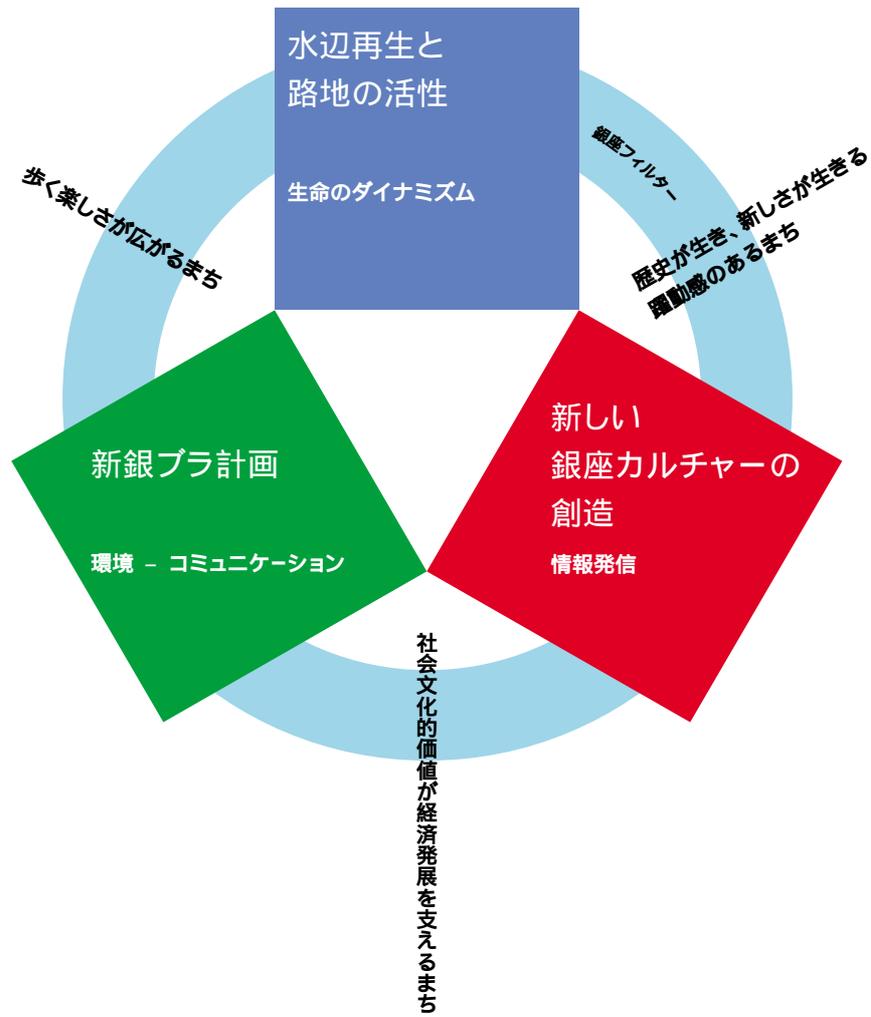
始めます。

で最初の煉瓦街が基本になっています。以来、日本を代表するまちとして発展し、歩み続けて来ました。しかし、その間の道のりは決して容易なものではありませんでした。大震災、世

界恐慌、戦災など。そうした大きな危機に何度も瀕しながら、そのつど、銀座を愛したお客さまや芸術家、文化人たちに支えられ、ときには協力を得ながら、銀座自らが立ち上がり乗り越えてきたのです。今また、銀座はさまざまな問題に直面しています。銀座の内部では、今後、容積率の緩和などによってビルの建て替えが進むものと考えられること、銀座の周辺地域の開発が進行していること、高率高額の固定資産税、相続税などのため、事業の継承が困難となっていること、銀座の住民が減り続けていることなど。

これらの問題点を今こそ見つめ、いかにしたらより躍動感のある銀座にすることができるかを真摯に考えなければなりません。銀座の関係者はもちろん、広く銀座を愛する方たちのご意見をも取り入れて、次代に誇りを持って引き継げる銀座のまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。そのため、図のように3つの方向からまちづくりを進めていくことにしました。







水辺再生と路地の活性

水 と緑のあるところへ行くとなぜかすっきりとし、気持ちが生き生きしますね。銀座はもともと水のまちでした。かつては海につながり、江戸時代は堀割と川に囲まれ、水路で物を運んだり、舟遊びも盛んだったのです。数寄屋橋、京橋、新橋という名前が残っていますが、橋を渡らなければ、銀座に入れませんでした。多くの文学作品や歌謡曲に登場する「銀座の柳」。水辺に生える柳が銀座の名物だったことも、水のまちをしのばせます。ところが、モータリゼーションの波が押し寄せ、便利さだけが追求されるようになり、堀割は埋め立てられ、水景は消えてしまいました。私たちは、川が流れ緑で潤う銀座を取り戻して、お客さまに生き活きとまちを歩いていただきたいとの思いから堀割の復活を考えたいと思います。また、晴海通りの歩道を拡げ、街路樹を二重にしたり、昭和通りの通過交通を地下化し、地上を噴水や緑のオープンスペースにする計画も検討しています。さらに銀座には、江戸時代からの路地が今も残っています。当時は、銀座の裏通りに職人たちが生活していて、路地空間には井戸や小さな稲荷があり、子供たちが遊び、人々が話を交わすコミュニケーションの場としての役割を果たしていました。路地空間の果たす役割を見直し、オープンカフェやくつろぎの場として活用できるよう、工夫をします。ビルを建て替えるときも、建物内に路地空間を作るようにするなどの配慮をしていきます。そして、歴史的な遺産となる建物や場を残し、新しさと古さが共存できる生命的なダイナミズムを持つまちづくりを心がけていきます。さらに景観に留意しながら、防災都市のインフラを整えていきます。



CaseStudy[A]

江戸のまちの骨格を残す銀座には、路地空間が多く存在します。すわってくつろげるたまり空間を設けたり、緑を設けるなど、ちょっとした工夫で路地は、おしゃれで魅力的なスモールアーバンスペースとなります。近道としても、こんなに便利なものはありません。

[晴海通り 歩道拡幅と街路樹列植計画]

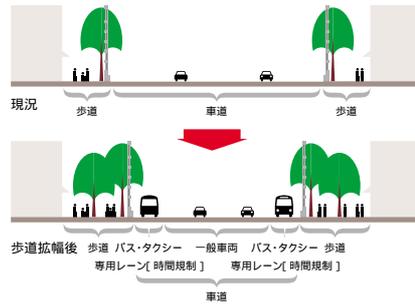


Chart Designed by Urban House & Infogram © 1999

CaseStudy[B]

晴海通りは、震災後に拡幅されましたが、現在は通過する交通が中心です。歩道を拡幅し、低公害な公共交通機関を導入したり、街路樹を2重に植えることにより、歩行者にとって快適な通りとなります。



[明治35年の銀座の路地のイメージ]

- ㊦ お稲荷さん
- 井戸
- 共同便所



Map Designed by Infogram ©1999

[現代に路地を生かすとしたら]

- ☕ オープンカフェ



CaseStudy[C]

堀割は、舟運交通の役割も果たしていました。写真上は水上バスが通っていた1959年 [昭和34年] の風景です。写真下は同じ場所が高速道路となった1965年 [昭和40年] の風景。船が行きかい路面電車の走っていた銀座は、現在、車が中心。欧米で運河の役割が見直されているように、銀座も水の復活と活用を考えていきます。写真出典:『東京高速道路30年のあゆみ』



新銀ブラ計画

銀

ブラという言葉が生まれたのは約100年前。明治時代に並木路ができ車道と歩道を分離し歩きやすくなったことから、時代を先取りし、おしゃれと新しいものに敏感な人たちで、銀座は活気に満ちていました。昭和の初めにはモボ・モガが闊歩し、紳士や淑女がさっそうと歩く大人の街でした。さらに銀座は安全で清潔、安心して歩けるまちとして、ご家族そろって休日を過ごすなごやかな姿も見られました。戦後になって、いち早く歩行者天国を実施し、ニュースになるなど、銀座はいつも全国の商店街のモデルとなってきました。現在は、電話一本で、またインターネットで、居ながらにして物が買えたり、情報が得られます。しかし、銀座を歩いてみてください。映画や演劇ばかりでなく、ミニコンサートやパフォーマンス、画廊めぐりやカルチャー教室など、さまざまな活動が日々行なわれています。新しい情報や初めてのモノに会えるかもしれません。知らない人とのふれあいが生まれるかもしれません。銀座特有のまちの香りをかきながら、自分の頭や手足を動かす感動と充実感を味わってください。私たちは歩くことを中心にまちを見直し、歩きやすさを追求していきます。高齢者や身体障害の方も自由に歩けるようバリアフリーの視点からも検討を加えていきたいと考えています。さらに、ワクワクする出会いの場を提供できるよう、通りごとに特徴を打ち出し個性ある通りを実現し、絵になる風景のまちづくりをめざします。また、通過交通の排除と公共交通システムの見直しをはかり、駐車場から環境カーで銀座の中へ入るパーク&ライドシステムや、銀座区内をきめ細かくサービスする電気自動車などを検討しています。路上駐車を解決するために、通りごとに通行する車の時間帯管理や駐車場の配置計画と空き情報管理などの仕組みづくりを提案するほか、路地や公開空地を利用して、人々が休んだり集える場所をつくります。路地や通りがくもの巣[ウェブ]のようにつながり、新鮮な驚きとコミュニケーションを生む、心おどる出会いの商空間=コミュウェブを形成すること、それが「新銀ブラ」です。



CaseStudy[A]

現在の銀座通り。
1968年[昭和43年]に
この形になりました。
まっすぐな壁面線、
低い街路樹、統一のとれた
街路灯が特徴です。
この通りを世界一美しい
通りという人もいますが、
そろそろ改修の
時期がきています。



Case Study [B]

通過交通を地下化し地上部分を公園化することにより、連続的なオープンスペースができます。海外ではすでに、高速道路を地下化して、地上を歩行者のための空間にする計画がすすめられています。写真出典:中・下 Urban Land, July 1999



昭和初期の昭和通り



Case Study [C]

低床で身障者や高齢者にもやさしく、低公害なLRT [Light Rail Transit 新しいタイプの路面電車のこと]



ボストン・セントラルアーテリー地下埋設計画



ミネソタのパークウェイ



Case Study [D]

大通りでは建物内部にアトリウム[ビル内の吹抜空間]やサンクンガーデン[地面より下がったレベルにある広場。地下鉄とつながる]を積極的に設けて、銀座のもつ独特の晴れがましさを演出します。また店先に「にぎわい空間」をつくることで、歩く楽しさが生まれ、銀座のまち全体がコミュニケーションの場となります。



新しい銀座カルチャーの創造

銀

座から、日本の一流新聞社が誕生しました。今も多くの地方新聞社や通信社が銀座に支局をおいています。映画館や劇場など文化施設も集中し、なかでもギャラリー-の数は今では全国の約4分の1にも及んでいます。また、バーやクラブ、レストランなども多く、そこに集まった多くの芸術家や文化人などが議論を交わしてきました。銀座は知的文化人の活動の場となり、新聞などのマスコミに取り上げられました。銀座には、こうした多様な文化を醸成するパワーがあり、時代時代に個性ある文化や新しい流行を発信してきたのです。今も質の高いインフォーマルな文化サロン、情報交流の場はそここで花開いています。私たちは、銀座を発信地としたメディアをネットワーク化し、自由に情報が生成されるよう応援していきます。銀座のお店は、知的情報交流の場として、銀座ならではの水準を保ち、ホスピタリティを身に付け、お客さまに信頼していただき、お客さまがお店を育て、お店がお客さまのお役に立つ親密な関係を築いていきたいと考えています。銀座に足を一歩踏み入れたときから、キリッと引き締まった、粋で洗練された大人の会話やおしゃれ、遊びが楽しめる-それが銀座の文化です。若い人たちにとっても、大人の世界を垣間見られる本物の文化に接し、身につけられる場、つまり、銀座のまち全体が開かれた「大学」となることをめざします。銀座に住むことを考えたことがありますか。住む人がいないまちは、荒廃につながります。私たちは、上質で適正な賃料の住居の開発をめざすとともに、若いアーティストや職人に建物の一部を提供し、居住や工房として使用してもらい、活動を支援するしくみを作ります。また、コンピュータによって銀座内部のコミュニケーションをスムーズにするシステムをつくる一方、銀座の外部の方たちとはインターネットなどを活用し、つねに新しい情報の受信と発信を行ないます。周辺エリアと共同で新しい文化発信の場を設けることも、今後の課題です。



CaseStudy[A]

レストラン、バー、カフェに人があつまり、コミュニケーションしたり議論する……そこから新しい銀座文化や情報が生まれる場をつくっていきます。



CaseStudy[B]

ベネチア・ビエンナーレやカンヌ映画祭のように、世界の一流のアーティストや知識人だけでなく、銀座に来る人びとも参加する、銀座ならではのイベントが、まちを活気づけ、特徴を際立たせます。



1階は通りに面したにぎわい空間です。
 2階では、銀座ならではのホスピタリティを感じさせる、
 客と店が育てあう長いおつきあいが生まれています。
 3階では大人の雰囲気です。食事とお酒を楽しむことができます。
 上層部では、文化活動が行なわれ、
 最上階には、アトリエで制作するアーティストや職人、
 銀座文化活動にかかわる人たちが住んでいます。

[銀座ライフスタイルのイメージ]

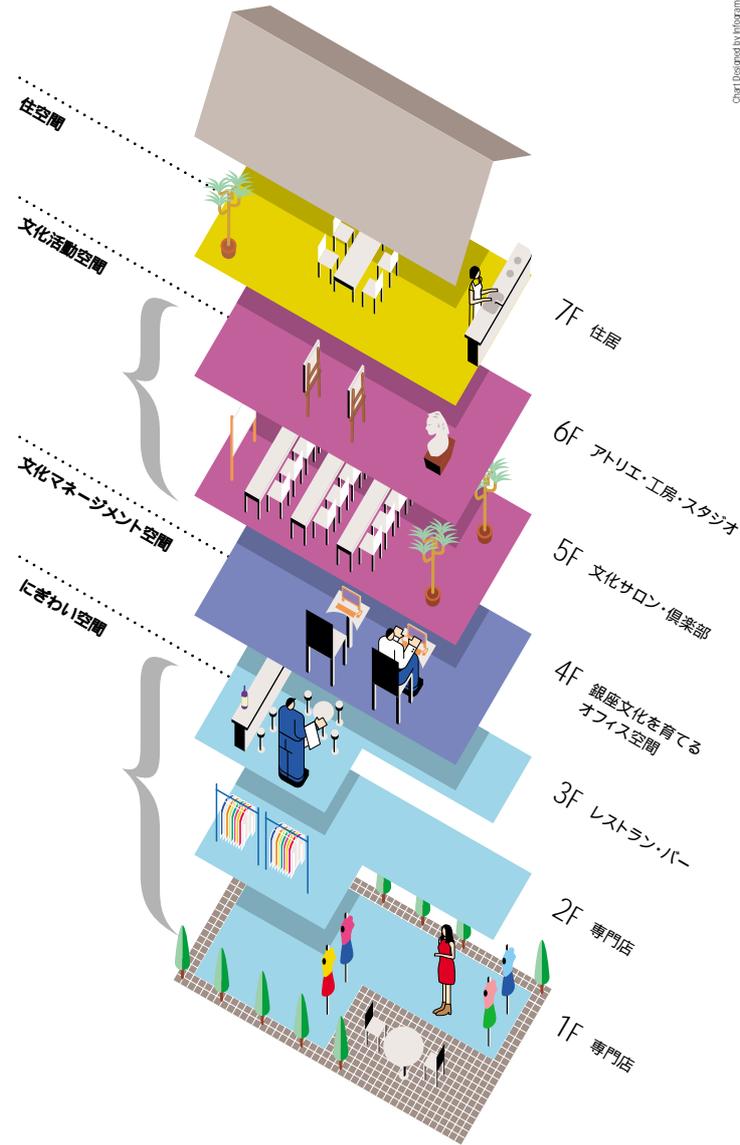


Chart Designed by infogram ©1999



CaseStudy[C]

ギャラリーのあつまる銀座で、
 展覧会をギャラリーの
 内部だけで行なうのではなく、
 まち全体をギャラリーに
 することも考えられます。
 パブリックアートがあると、
 まちや通りに表情がでます。

銀座まちづくりを実現する第一歩

まず、参加しませんか。

以下のような提案をさらにふかめ、実現するために

銀座まちづくりフォーラム

銀座まちづくり会議

銀座カルチャーバンク

銀座まちづくりファンド を作ります。

銀座を愛する人なら誰でも参加できる

銀座まちづくりフォーラム

銀座を愛する人なら誰でも自由に参加し
意見をのべられる場として

「銀座まちづくりフォーラム」を設けます。

このなかには、銀座を多様な分野から

とらえ検討できるたくさんの会を作ります。

例えば、次のような分科会案が出されています。

銀座フィルターを考える会

歴史的建築の保存と活用を考える会

銀座居住者の会

銀座の商業文化を守る会

全銀座イベントを考える会

バリアフリー研究会

銀座デザインフォーラム

アーティスト・職人の工房開設運動

銀座都市マネジメント勉強会

銀座の公共交通を考える会

街路カルテ作成

その他

その他、銀座をよくするために考えたい会が
ありましたら、ぜひ提案してください。



銀座・行政・専門家が一体となって取り組む

銀座まちづくり会議

「銀座まちづくりフォーラム」で提案されたさまざまなアイデア、意見を集約して、銀座まちづくりガイドラインや、銀座建築協定などを作成していきます。また、提案を具体化するためのシステムづくり、まち運営のしくみづくりをします。

銀座の歴史や文化財産をストックし、活用する

銀座カルチャーバンク

「銀座まちづくりフォーラム」のなかで生まれる提案や知恵。これまでさまざまな人が行なった銀座の研究、歴史の遺産、銀座をめぐるあらゆる情報・資料、そして人材を有形無形を問わず、銀座の財産としてストックします。文化活動の支援や研究助成をする文化経済システムをつくり、新たに生成する情報を世界へ発信できる場としていきます。

CONSTANTにまちづくり事業を支えるための

銀座まちづくりファンド

まちづくりの活動を支えるために、財源の確保が必要です。CONSTANTにまちづくり事業をおこせるしくみとして、「まちづくりファンド」を設立します。例えば、新しいカードシステムをつくり、お客さまにお買物をしていただくと、その一部が「まちづくりファンド」に積み立てられ、その資金が、まちづくり運営組織を作ったり、フォーラムや会議の運営、イベントの開催などのまちづくり事業のほか、日常的なまちづくり活動やまちの環境整備のために使われるようにします。そのカードでお客さまにお買物をしていただくほど、銀座のまちづくりに貢献していただけるというわけです。同時に、行政からは、活性化資金などの協力を得ます。

まちづくりは永遠のプロセスであり、
この提案だけで終わるものではありません。
上記のようなフォーラムや会議などで、皆さまのご意見を集約し、
提案を具体的にまとめていきたいと考えています。
伝統ある世界の銀座に誇りを持ち、
銀座が銀座であり続けるために努力していきます。

1919

銀座通連合会

21世紀にむけて銀座のすすむべき方向とは?

1993

銀座研究プロジェクト

自主研究

《銀座》に都市の危機と可能性を探り、日本及び世界のモデルとなりうるかを探る自主研究。



銀座の場所の力 / 生命の力を発見する。
産業主義の没場所化をこえる
「歴史の潜在力」
「新しさをうけいれる力」をみる。
21世紀の都市像となりうる可能性を持っている。

調査研究

1998
January

銀座都市計画会議

銀座の魅力と課題は何か。
まちづくりの目標とは何か。
[まちづくりの哲学]

銀座都市計画会議の目的
銀座歴史研究をふまえた
実際のまちづくりを追求する。
場所意志にもとづいた
提案をつくる。



ワークショップ

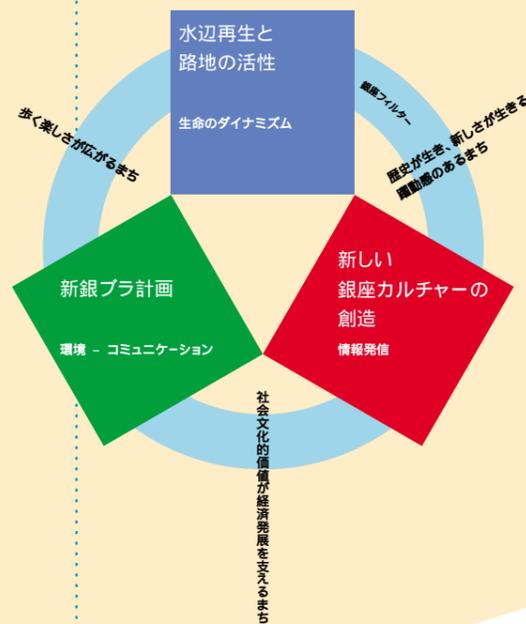


会議

1999
November

まちづくりビジョン

まちづくりに対する
銀座内の意識を統一し、
銀座を愛するすべての人々に
まちづくりの決意を伝え、
ムーブメントをひきおこす。



地区計画に関する中央区との協議



容積率アップ | 総合的地区計画



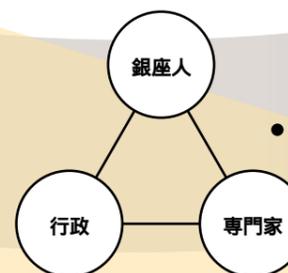
銀座が変わる

提案・計画

銀座まちづくりフォーラム

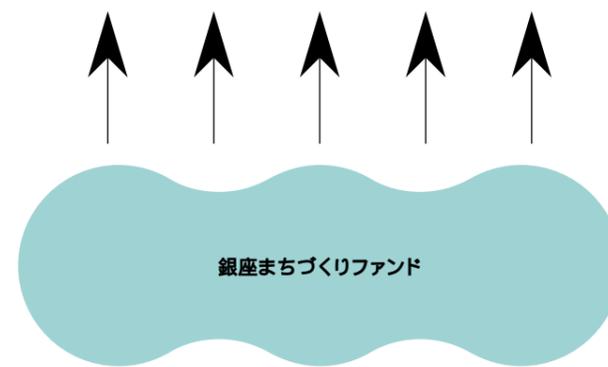
- 公共交通
- デザイン
- 建築
- 居住
- 商業文化
- バリアフリー
- 街路
- 都市マネジメント
- その他

銀座まちづくり会議



アクション

銀座カルチャーバンク



アクション

躍動感あふれる銀座へ



銀座近未来スケッチ[3]路地の銀座

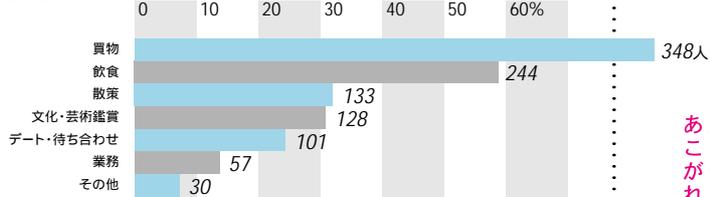
路地には、ちょっと休めるオープンカフェや本屋さん、
ギャラリーが並び、人々の憩いの場となっています。
昔ながらの居酒屋や稲荷もあり、しゃれた雰囲気になじんんでいます。

Data

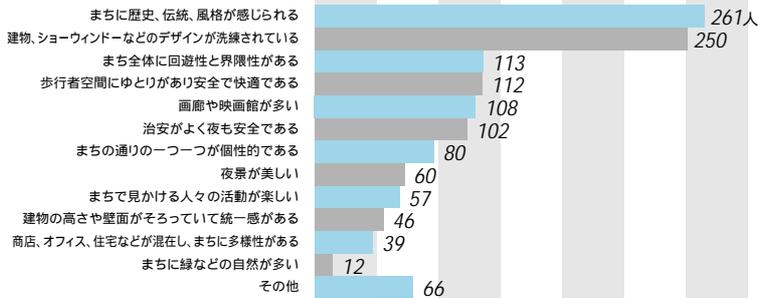
銀座のまちの 魅力と 課題

一九九八年十月から
一九九九年二月にかけて、
銀座コンシェルジュの
協力を得て、
インターネットによる
「銀座まちづくりアンケート」を
行ないました。
全国の回答者が、
銀座の未来に熱い期待を
寄せています。

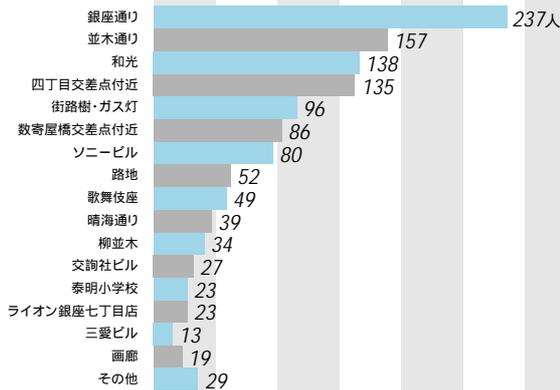
銀座に来る主要な目的



銀座のまちの魅力



好きな銀座の場所



庶民性がありながら歴史と伝統が残っていて大人の風格がある銀座が大好きです。
あこがれのまち銀座へは、いつもちよっと小粋に決めていくようにしています。

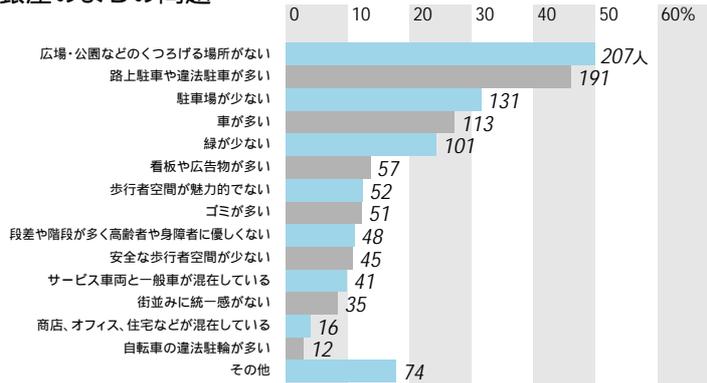
アンケートの声



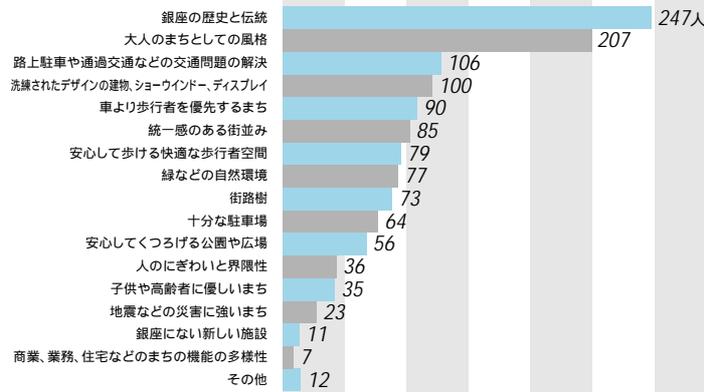
銀座の声

当の銀座の人々は、自分たちの良さを認識しているだろうか。銀座の特徴、良さをもっと認識して、それを強く打ち出していくことが大切だと思う。

銀座のまちの問題



将来の銀座のまちづくりを考える上で大切にすべき点

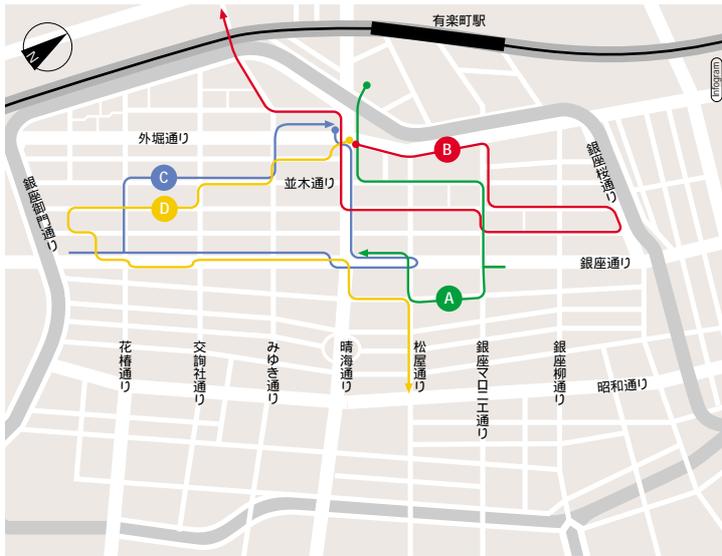


資料:銀座コンシェルジュ「銀座まちづくりアンケート」1998年10月

街路樹と 好きな まち歩きルート

銀座は通りごとに
違う種類の
街路樹が植えられ、
通りの個性を演出しています。
通りによって、
人それぞれに思い入れがあり、
まちを歩くのに、
自分の好きなルートを
持っていたり、
立寄り場所が違いますが
わかりました。

私の好きなまち歩きルート



1999年1月 銀座都市計画会議によるワークショップ

- A** 西武・阪急—晴海通り—並木通り—銀座マロニエ通り—伊東屋
—スターバックス—教文館—地下鉄銀座駅
- B** 地下鉄銀座駅—プランタン—NOLLEY'S—観世通り
—SHIPS—BEAMS—晴海通り—みゆき通り—帝国ホテル—日比谷公園
- C** 地下鉄銀座駅—晴海通り—和光—銀座通り—松屋
—ザ・ギンザ—花椿通り—並木通り—みゆき通り—旭屋書店
- D** 地下鉄銀座駅—数寄屋橋交差点—ソニービル—ソニー通り
—並木通り—交詢社通り—金春通り—銀座通り—ライオン—ニューメルサ
—東京鳩居堂—晴海通り—王子ホール—地下鉄東銀座駅

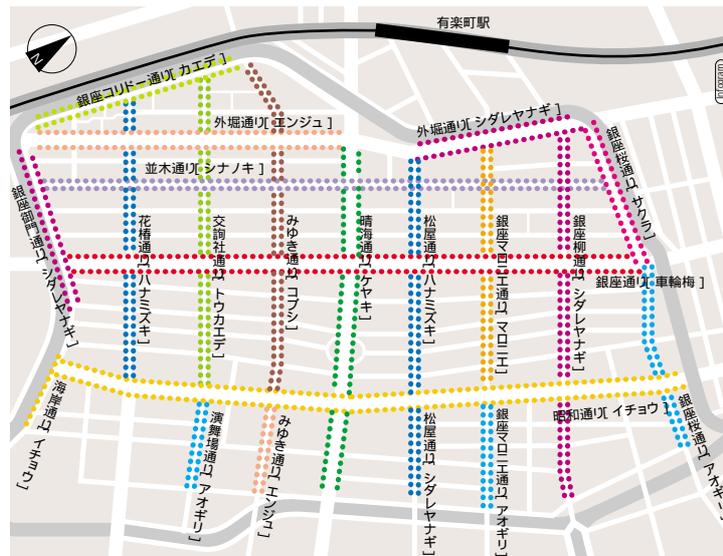
雑多な景観のまちなみが多いわが国において、せめて銀座だけでも
徹底的に美しい景観を追求するまちづくりをめざしてほしいですね。

アンケートの声

銀座の声

銀座人としての誇りとロマンを持ち、本物を売るといふことにいつそう徹したい。商売の基本をふまえながら、時代の空気、風、においにあった商品をそろえる努力と勤勉、誠実さは失うまい。

銀座街路樹マップ



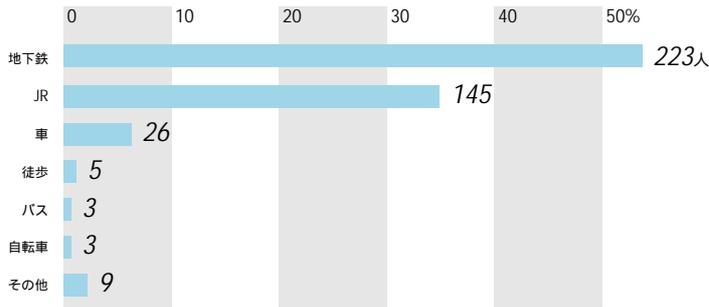
1999年10月現在 銀座都市計画会議 調査 注:外堀通りのエンジュはヤナギに植替中

- ケヤキ
- イチヨウ
- シナノキ
- コバシ
- エンジュ
- トウカエデ
- アオギリ
- ハナミズキ
- 車輪梅
- シダレヤナギ
- マロニエ
- カエデ
- サクラ

交通の銀座

銀座の昼間人口は、約十五万人です。銀座通りの歩行者の数だけでも一日約四万七千人。銀座へ来る半数以上の人が地下鉄を利用しています。自動車の数は、銀座を通過する車も含めて五万二千台。多くの人と車が銀座を利用していることがわかります。

よく使う銀座への交通手段



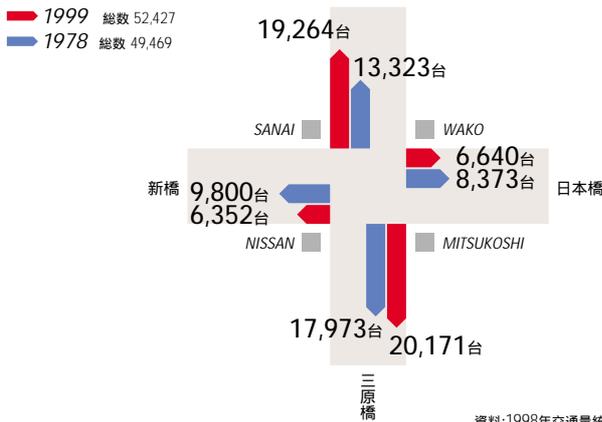
資料:銀座コンシェルジュ「銀座まちづくりアンケート」,1998年10月

1日の乗降客数

都営浅草線	東銀座駅	79,053人
	宝町駅	19,656人
営団 銀座線 丸ノ内線 日比谷線	銀座駅	281,028人
営団日比谷線	東銀座駅	86,578人
営団有楽町線	銀座一丁目駅	36,435人
JR	有楽町駅	165,596人
	新橋駅	231,332人

資料:1998年中央区政年鑑[地下鉄:1997年度 / JR:1996年度]

自動車交通量[四輪車]



資料:1998年交通量統計表[警視庁交通部]

まちを歩いてゆっくりリシューウィンドーやディスプレイを見て、おいしい食事をして、映画を鑑賞して、豊かなひとときを過ごすことができる。銀座はそんな大人のまち。

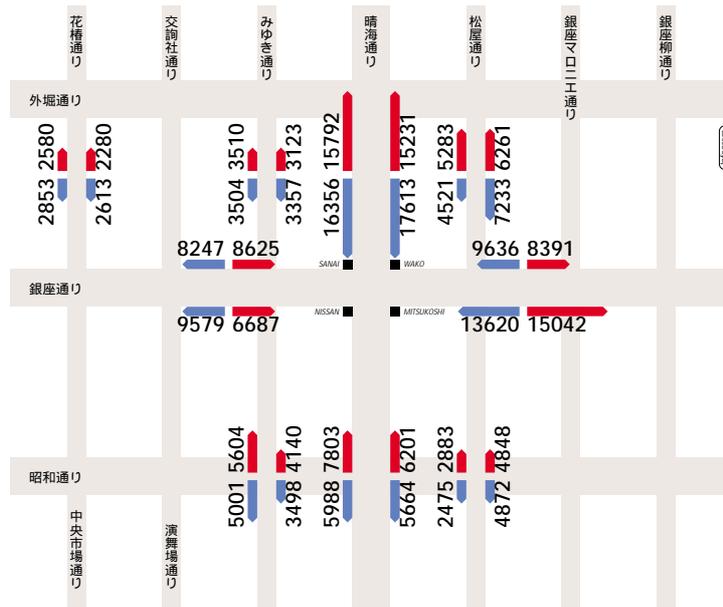
アンケートの声



銀座の声

銀座も経済成長という名のもとに、よい部分をなくしてきたかもしれない。これからはそれを取り戻すことがわれわれの使命かもしれない。

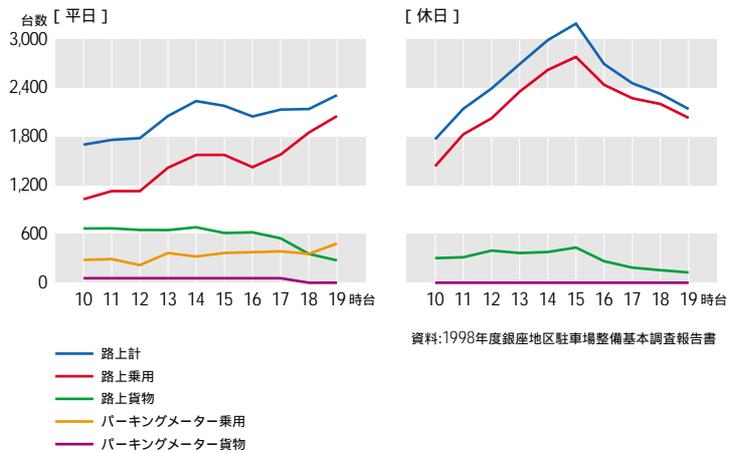
歩行者調査[人 / 平日・12時間]



資料:銀座・築地都心高度商業地区再生構想策定調査1999年7月

路上駐車状況

銀座の駐車場の許容台数は約3000台以上。
路上駐車は平日・休日ともに2000台を越えているのが現状です。

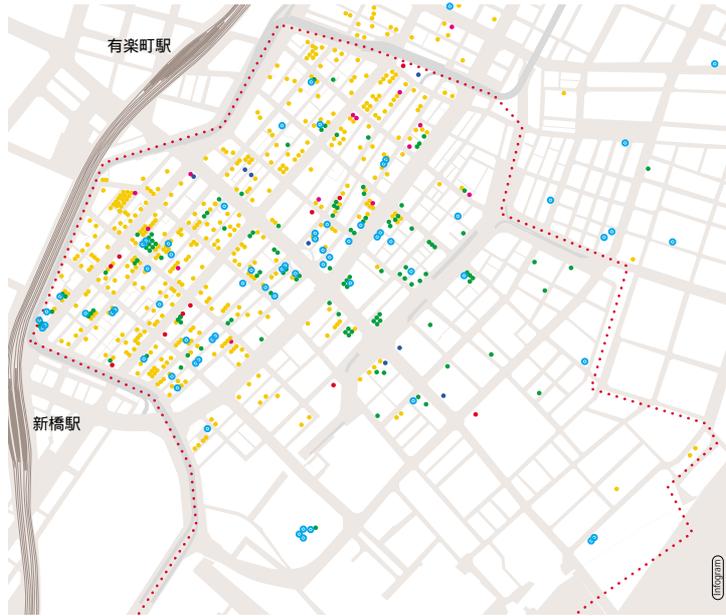


資料:1998年度銀座地区駐車場整備基本調査報告書

文化施設 と文化活動

日本で画廊がめずらしい
一九五五年「昭和三〇年」
銀座にはすでに十九の画廊が
ありました。
一九九九年「平成十二年」には
約四 軒が増え、その数は
なんと日本全国の約四分の二に
あたります。日本を代表する
新聞社も銀座から誕生。銀座は
日本中の知識人、学識者が
集まり、時代を先取りした
情報の発信地となっています。

銀座の画廊・新聞社・放送局・劇場・ホール・映画館



資料:中央区沿革図集ほか

- 画廊・ギャラリー
- 美術館・美術商組合・オークション会場・雑誌発行所等
- 新聞社
- 放送局
- 劇場・ホール
- 映画館

住む人、働く人、遊びにくる人：それぞれに「銀座だから」という緊張感と誇りがある。そのような印象を維持・拡大するために、こだわりやアイデンティティを保護・教育するシステムが必要だと思えます。

ARTIST'S



銀座百景
一九五五年「昭和三〇年」の創刊以来、昔からの銀座に息づく知的で情緒豊かな文化を伝えている月刊誌です。現在十三万部発行。

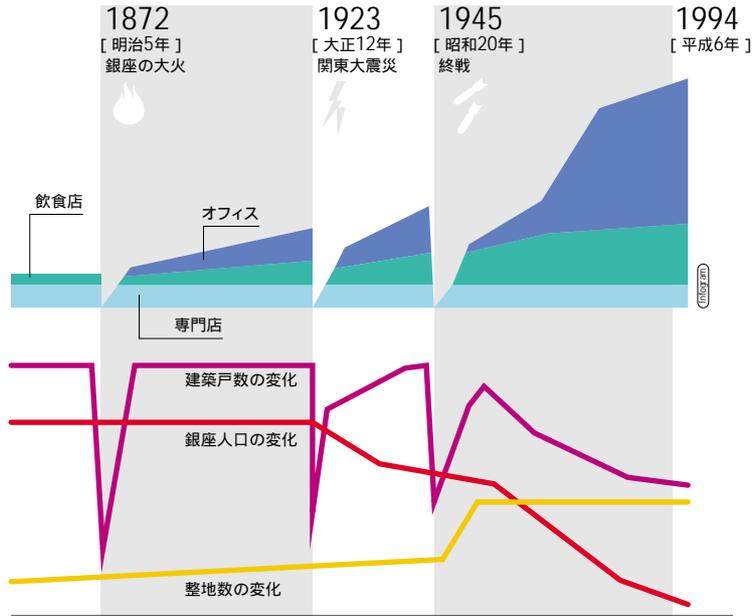


ポルトパロール
フランス語で「代弁者」という意味の銀座タウン紙。銀座のホットな話題や最新の文化イベント、商品情報などを提供しています。



銀座コンシェルジュ
インターネットのホームページによる
銀座の案内板です。
銀座を楽しくをガイドに編集され、
銀座の最新情報からイベント、季節の話題、
ショップ紹介、歴史など、
二十四時間いつでもどこに任せていても、
外国からでも楽しめることができます。
<http://www.ginza.co.jp>

銀座の流れ [概念図]



岡本哲志 作成

銀座の声

近隣の商店同士のコミュニケーションを深め、連帯感、理解、協調、思いやりを大切にしたい。それによって、銀座に来る方すべてを迎えるにふさわしい、あたたかいまちづくりの基盤が得られるのではないだろうか。



銀座キヤラーネット
銀座十五の画廊が集まって、共通のテーマのもとに
展覧会とセミナー「キンザ・シティ・オフ・ユバハシティ」を
行なっています。一九九八年のテーマは、「ハイブリッド・アジア」、
九九九年のテーマは、「キヤリアー」持続する現場」です。

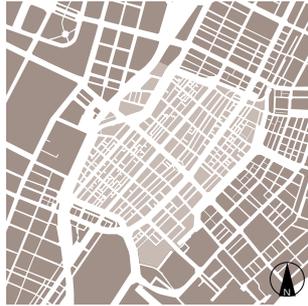


文化バスター
「文化国家づくりのための大人の意識改革を
銀座で」という趣旨でスタートした文化会議です。
文化人・アーティストが自主的に参加して、楽しく学ぶ
大人の学校、「スコレ運動」を推進しています。

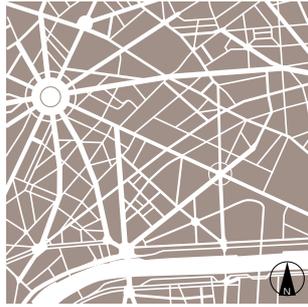
銀座の スケールと その周辺

銀座が明治の初め、
どこよりも先に日本を
代表するまちとなったのは、
周辺に行政の霞ヶ関、
オフィス街の丸の内、
商業金融の中心地日本橋、
外国人居留地のあつた築地、
鉄道の起点である
新橋駅をひかえ、
さまざまな情報・文化・人の
参集をみたからに
ほかなりません。

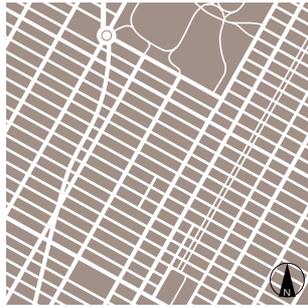
ニューヨーク、パリとのスケールとパターン比較



東京 | 日本
銀座



パリ | フランス
ルーブル/シャンゼリゼ



ニューヨーク | アメリカ
マンハッタン・ミッドタウン

銀座とマンハッタン、
シャンゼリゼを
比べてみると、銀座は
街区一つ一つが小さく、
よりヒューマンな
スケールであることが
わかります。
その中に、専門店、
レストラン、バー、画廊など、
人々の心を満足させる
あらゆるアイテムが
凝集しています。



歴史や現状に甘んじることなく、まち全体で将来のことを考えている銀座が
あと百年たっても、いまのような魅力を持ちつづけてほしいと思います。

アンケート
声



汐留地区再開発と銀座「模型」
銀座築地都心高度商業地区再生構想策定調査



銀座周辺地域の開発状況[1999年]

銀座の声

銀座はこれからも世界の銀座でありつづけてほしい。そのためにも、私はいつの日か、また銀座に住みたい。そうしなければ本当のまちづくりはわからないだろう。



資料:首都圏計画地図 かんき出版 地をもとに作成

銀座通連合会創立80周年記念事業
銀座まちづくりビジョン
銀座通りに柳は必要か

発行
銀座通連合会
東京都中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F
電話 03-3561-0919

発行日
1999年11月5日

銀座都市計画会議
銀座通連合会
小坂 敬[銀座通連合会理事長]
遠藤 彬[銀座通連合会副理事長]
三枝 進[銀座通連合会文化活動委員会]
—
文化科学高等研究院
岡本哲志[岡本哲志都市建築研究所]
倉田直道[アーバン・ハウス都市建築研究所]
平松暁子[アーバン・ハウス都市建築研究所]
福井恵彦[学習院大学教授]
山本哲土[信州大学教授]

アドバイザー
陣内秀信[法政大学教授]
大江 新[法政大学教授]

コーディネーター | 編集
竹沢えり子

デザイン
NDCグラフィックス
中川憲造
森上 暁
印田裕之

絵
藪野 健

編集協力
天津日呂美[天津広告事務所]
萩 和子[クリエイティブハウスOM2]

用紙提供
王子製紙株式会社
カバー:OKエコプラス四六判135kg
本文:OKブライトラフ菊判53.5kg

©銀座通連合会 1999
図版© Infogram
禁無断転載

Vision

Data

この冊子のできるまで

1998年1月より、銀座通連合会では銀座都市計画会議のもとに、文化科学高等研究院と共働で、さまざまな議論をかさねてきました。また、ワークショップ、アンケート、街路カルテづくりなどみなさまの意見や考えをお聞きするなどのプロセスを経てきました。銀座通連合会は、今年、創設80周年をむかえます。その節目をひとつのきっかけとして、銀座で商売を営むみなさま、銀座に住むみなさま、そして銀座を愛するみなさますべてにご参画いただいて、銀座がもっと魅力にあふれるまちになるためにはどうすればよいか、真剣なる議論をまきおこしたいと切に願って、この冊子を作りました。なお、銀座都市計画会議の記録はまとめて、銀座通連合会においてあります。また、文化科学高等研究院は1993年より、都市史、建築史、歴史、社会学など、数十名の研究者を集めて銀座の調査研究を行なってきました。その研究の成果の一部も銀座通連合会で閲覧することができます。